

Q3 学びをつくり出す授業づくりの進め方は？

A: 次のことを中心に進めていきます。



- ① 子どもの実態を把握し、高める能力を重点化します。
- ② 授業づくり(学習活動、評価活動の工夫)を行います。

1 学びをつくり出すキャリア教育における授業づくりの手順

(1) 高める能力の重点化

<手引Ⅰ:Q6・Q7参照>



■ 手引ⅠのQ6でも説明していますが、学びをつくり出すキャリア教育の授業づくりは、右図の流れになります。ここで大切なのは、次の手順Ⅰ～Ⅲです。

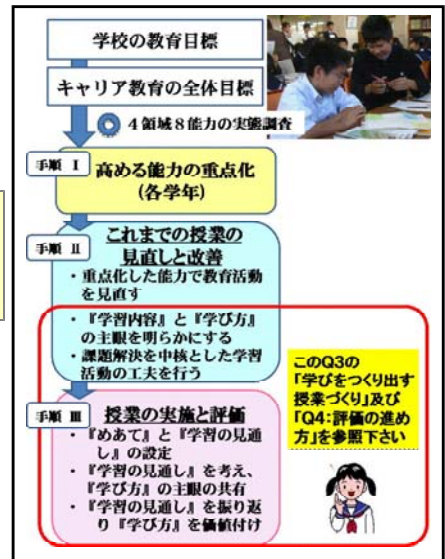
手順Ⅰ 各学年で、子どもの4領域8能力の実態を把握し、高める能力を重点化する。

■ 各学年で高める能力を重点化するためには次の取組が必要です。

- i) 子どもの4領域8能力の実態を調査する。
- ii) 実態調査を分析し、高める能力を重点化する。
- iii) 重点化した能力が高まった姿を具体化する。



実態調査用紙は、第3章p40～p43を、取組の具体例は、手引ⅠのQ7をご覧ください。



(2) 学習活動の工夫

<手引Ⅰ:Q9参照>



手順Ⅱ これまでの授業を見直し、重点化した能力を高める学習活動の工夫を考える。

■ 学びをつくり出すキャリア教育では、『学び方』に視点をあて、授業では学習活動の工夫を通して重点化した能力を高めていきます。



具体的な進め方は、次の「学びをつくり出す授業づくり(学習活動の工夫)」および、手引ⅠのQ9をご覧ください。

(3) 評価の工夫

手順Ⅲ 授業を実施し、「学び方」の評価(価値付け)を行います。

<第1章:Q4参照>

■ 学びをつくり出すキャリア教育の授業では、従来の『何を学んだか(学習内容)』の評価に加え、『どのように学んだか(学び方)』の評価を行います。



具体的な進め方は、「Q4:4領域8能力の評価の進め方」をご覧ください。

2 学びをつくり出す授業づくり(学習活動の工夫)

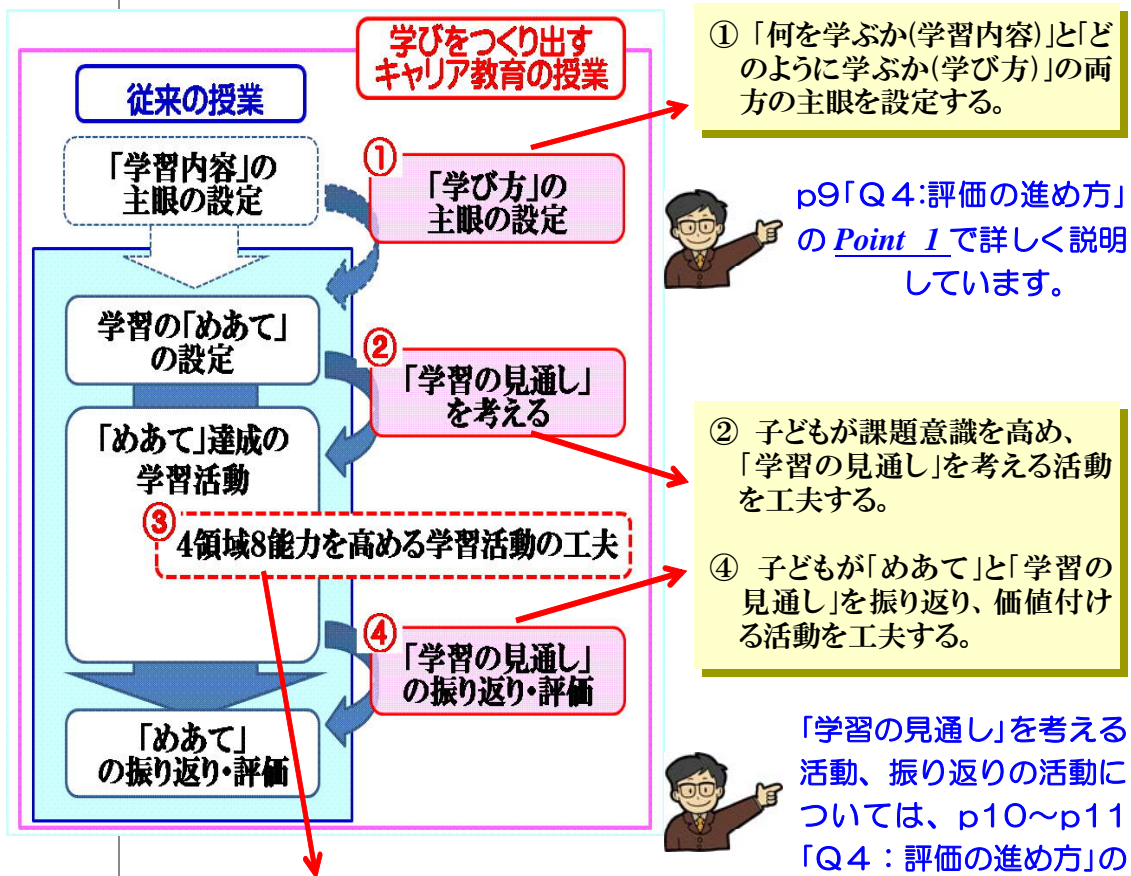
<手引Ⅰ:Q9参照>



■ 単位時間における授業を考える際に、特別な授業設計を行う必要はありません。下図のように、従来の授業の学習活動を基本に次の①～④の工夫を加えるだけで十分なのです。

◎ 単位時間の授業設計では、課題解決を中心として重点化した4領域8能力を高める学習活動の工夫を行います。

- ① 「何を学ぶか(学習内容)」と「どのように学ぶか(学び方)」の両方の主眼を設定します。
- ② 子どもが課題意識を高め、「学習の見通し」を考える学習活動を工夫します。
- ③ 子どもが試行錯誤しながら重点化した能力を高め、自力解決できる活動を設定します。
- ④ 子どもが「めあて」と「学習の見通し」を振り返り、価値付ける活動を設定します。



① 「何を学ぶか(学習内容)」と「どのように学ぶか(学び方)」の両方の主眼を設定する。



p9「Q4:評価の進め方」のPoint 1で詳しく説明しています。

② 子どもが課題意識を高め、「学習の見通し」を考える活動を工夫する。

④ 子どもが「めあて」と「学習の見通し」を振り返り、価値付ける活動を工夫する。



「学習の見通し」を考える活動、振り返りの活動については、p10～p11「Q4:評価の進め方」のPoint 2およびPoint 3で詳しく説明しています。



<手引Ⅰ:第3章参照>



③ 子どもが試行錯誤しながら重点化した能力を高め、自力解決することができる活動を工夫する。
子どもが重点化した能力を高め、自力解決するための学習活動の工夫は「手引Ⅰ:第3章」の4事例と、「本手引:第2章:p16～p35」の10事例の中で紹介しています。